

カーボンナノチューブの加工研究

鳥栖の産総研九州センター主任研究員
鈴木氏に矢崎学術賞



矢崎学術賞奨励賞を受賞した産業技術総合研究所（産総研）の鈴木大地氏。東京都港区の東京プリンスホテル

優れた研究への助成活動に
取り組む公益財団法人「矢崎科学技術振興」記念財
団（佐藤慎一理事長）が
2月29日、都内で本年度の
研究員（佐藤慎一理事長）が
九州センター（鳥栖市）主
任研究員の鈴木大地氏（35）

優れた研究への助成活動に
取り組む公益財団法人「矢崎科学技術振興」記念財
団（佐藤慎一理事長）が
2月29日、都内で本年度の
研究員（佐藤慎一理事長）が
九州センター（鳥栖市）主
任研究員の鈴木大地氏（35）

同市が奨励賞に輝いた。カーボンナノチューブ（CNT）の新たな加工技術に関する研究が評価され、鈴木氏は「社会に役立つ科学技術の発展に貢献したい」と意気込みを語った。CNTの膜は高い導電・熱電特性や、紫外線からテラヘルツ帯の電磁波まで広い帯域を吸収する特性を持ち、強度が高く折り曲げが可能など、従来の半導体材料にはない長所を持っている。従来は素材として必要な形や大きさに加工することが難しいという課題があったが、鈴木氏は土台にレーザー加工などであらかじめ必要な形状を用意し、意図した位置にのみCNT膜を生成する技術を確立した。

が特徴」と語り、マイクロメーターからセンチメートル単位まで幅広いサイズに対応できると説明。6Gに対応した高周波フィルターやインフルエンザウイルスの検出など幅広い分野への応用が期待できるという。矢崎学術賞は過去に財団から助成を受けた研究のうち、成果が顕著なものに贈られる。鈴木氏は2018年度に助成を受けていた。（大橋諒）